Town Scape
タウンスケープ

上尾市

みんなでつくる　みんなが輝くまち　あげお

上尾市長　畠山 稔氏

市長のメッセージ

本市は、大型商業施設や物流倉庫が相次いでオープンするとともに、都心へのアクセスが向上する自動車専用道路（新大宮上尾道路）の事業化など、更なる発展が期待されております。

そして本年、「第6次上尾市総合計画」をはじめとして、さまざまな計画がスタートいたしました。持続可能なまちづくりのためにも、人と人とのつながりを大切にし、本市の新たな将来都市像でもある「みんなでつくる　みんなが輝くまち　あげお」の実現に向け、各種施策を積極的に展開してまいります。

はじめに

上尾市は埼玉県の南東部に位置し、都心から概ね35kmの距離にある。東は伊奈町と蓮田市、南はさいたま市、西は川越市と川島町、北は桶川市に接している。大宮台地の中央部に位置し起伏の少ない地形で、市の中心部を鴨川と芝川が流れるほか、西境に荒川、東境に綾瀬川が流れている。

江戸時代には中山道の宿場町、荒川舟運の要衝として発展した。明治16（1883）年に高崎線が開通し、浦和、鴻巣、熊谷とともに上尾駅が設置された。現在、市内にはJR高崎線の上尾駅、北上尾駅のほか、埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）の原市駅、沼南駅がある。

国道17号が市の中央を縦貫するほか、新大宮バイパスと圏央道を結ぶ上尾道路（表紙写真）が開通したこともあり、高速道路へのアクセスが向上し交通利便性の高い地域となっている。さらに、上尾道路の上部を高架構造の自動車専用道路である新大宮上尾道路が、首都高速与野JCTから鴻巣市まで計画されており、途中、桶川市で圏央道と接続することから、さらなる利便性の向上が期待されている。

上尾の伝統農具が国の宝へ

市が所有する「上尾の摘田（つみた）・畑作用具」が本年3月、国重要有形民俗文化財に指定された。市内で初、県内で9件目である。

上尾市域は、水はけのよい土壌の特性をいかして、麦やサツマイモを中心とした畑主体の農業が営まれる一方で、谷地の低湿地にある限られた田では、摘田による米作りが昭和40年代まで伝統的に継承されてきた。一般的に稲作といえば、田植えを行なう「植田（うえた）」が知られているが、かつては種を田に直接まいて生育させる「摘田」が日本各地にあり、埼玉県内では、上尾市域を含む大宮台地とその周辺に集中的にみられた。

今回指定された「摘田・畑作用具」は、田や畑の土を耕す作業から、種をまき、実った米や麦を収穫するまでの一連の農作業に実際に使用されていた農具であり、直播（じかまき）栽培の「摘田」による米作りに使用された「摘田用具」405点と、麦やサツマイモの栽培に使用された「畑作用具」345点の計750点である。地域的な特徴を示す資料であるとともに、日本の農耕文化の移り変わりを知る上で特に重要であると評価された。

国重要有形民俗文化財に指定された上尾の伝統農具

上尾市概要

人口(2021年6月1日現在)	229,932人
世帯数(同上)	104,716世帯
平均年齢(2021年3月31日現在)	46.7歳
面積	45.51㎢
製造業事業所数(工業統計)	202所
製造品出荷額等 (同上)	4,361.2億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	1,159店
商品販売額 (同上)	5,043.6億円
公共下水道普及率	83.6%
舗装率	88.5%

資料:「令和2年埼玉県統計年鑑」ほか

主な交通機関

●JR高崎線　上尾駅、北上尾駅
　埼玉新都市交通伊奈線(ニューシャトル)　原市駅、沼南駅
●圏央道　桶川加納ICから市役所まで約5km

子育て、教育に最適な環境を整備

上尾市では、本年5月1日、市役所5階に「子ども家庭総合支援センター」を開設した。これまでも、妊活・妊娠から子育て期にわたり切れ目なく寄り添いながら支援するために「子育て世代包括支援センター」を市内3カ所に設置し、助産師などの資格を持つ専任のコーディネーターが妊娠・出産・育児に関する相談や各種手続きの案内など関係機関と連携しながらサポートをしてきた。今回の新たなセンターは、この取り組みをさらに進め、社会福祉士、精神保健福祉士などの資格を有する職員を配置した。妊産婦の心配事や家庭での子どものしつけ、行動に関する悩みなど妊娠期から子育て期の相談に加え、成人の引きこもりなどに関する相談にワンストップで対応している。また、産前産後ヘルパー派遣事業や子どもショートステイ事業など、さまざまな子育て支援を行っている。

学校教育環境の整備にも力を入れている。小・中学校の全児童・生徒に学習者用端末を配備するとともに、Wi-Fiと大型モニタを全教室に設置し、デジタル教科書、オンラインドリルを使用するなどICT機器を活用した学習を行っている。また、国から教育課程特例校の指定を受け、「生きた英語」を学ぶ環境の整備を推進している。小学校1・2年で英語や外国の文化に慣れ親しむ「英語活動」を実施し、その後中学校までの9年間を見通した英語教育の充実につなげている。

安全な暮らしを守るまちづくり

令和元年東日本台風により、床上浸水47件、床下浸水12件などの被害が発生した。市では、「安全な暮らしを守るまちづくり」のため、主要河川への河川監視カメラ、避難所となる学校体育館へのエアコン、災害用マンホールトイレを設置するとともに、今年度中には新たな災害ハザードマップの配布を予定している。また、市内全域に自主防災会を結成、市内全避難所へ避難所運営の手順書などが入った避難所開設キットを配備するなど、地域防災力の向上、防災体制の強化、減災対策の推進に取り組んでいる。

上尾市は選ばれるまちとして人口の増加が続いている。市民意識調査では、「住みよい」との回答が年々増加し平成30年度は65.2%となった。市民の安全な暮らしを守り、より住みやすく、住み続けたいまちとなるよう住民に寄り添ったまちづくりの成果が表れている。　(吉嶺暢嗣)

市役所5階に開設された「子ども家庭総合支援センター」